

2024年活動スローガン 「バザー続けて80回 手をつなごう 世界の子ども達のために」

報 告 2023年10月～12月支援分

お知らせ

〈バングラデシュ〉

●トイレ寄付

・有志の方よりカバシア郡の学校にトイレ2基

●その他の寄付

・西澤芳正様よりエンゼルホームの渡り廊下屋根補修

・手作りボランティアサークル「ドンノバ」様よりエンゼルホームの子ども達に学校の制服と冬服

・大阪Iゾンタクラブ様よりエンゼルホームに洗濯機

●アイキャンプ

・11月、エンゼルホーム内の診療所で佐賀県のNPO法人「POSA」の医師らによってアイキャンプが行われ96名の白内障患者の手術が行われました。

〈国内活動〉

●あおぞら食堂「エンゼル」(子ども食堂)への寄付

・越山酒販様より食材(お米)の寄付

・国際ソロプチミスト伊丹様より2万円寄付

●12月に大阪のJR天王寺駅前街頭募金を行いました。多くの方々にご協力いただきありがとうございました。

●2023年11月10日に兵庫県より認定NPO法人として認定を受けました。これからもより一層社会の為に活動していきたいと思ひます。今後ともどうぞご支援いただきますようお願いいたします。なお、認定を受けたことにより、当協会への寄付は寄付金控除の対象となります。

●会員総会 3月8日(金) 13:30～

会員の方には後日案内をお送りしますのでご出席してくださいませようお願いします。

イベント情報

4月10日(水) 春のチャリティバザー

場所：本協会ボランティアセンター(伊丹市)
時間：10:00～14:00

●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、シーツ、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバン、おもちゃなどいつでも受け付けています。事務所までご連絡下さい。
☆取り扱っていないもの☆
家具、大型電化製品、自転車、使用済み食器等

編集後記

新年を迎えました。今年の抱負を考えた時に、ふと友人の子どもが、小学一年生の夏休みの宿題に「良かったさがし」を行った事を思い出しました。「雨がやんでラジオ体操に行けて良かった」など日常の良かった出来事を記し、最後には「良いことって毎日あるんだな」と綴っていました。日々の生活の中思わず不満を抱くこともあります、大抵の出来事は見方を変えれば「良かった」と思えます。私も彼女のように小さな幸せを見つけることで前向きに過ごすことを今年の目標にしようと思います。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替
でお送り下さい。
郵便自動払込方法も受付けています。郵便振替・口座番号
01130-1-59586※その他、バザー用物資によるご協力
もよりしくお願いします。会員数：一般会員 626名
DCEF会員 561名
(1月1日現在)

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



認定特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

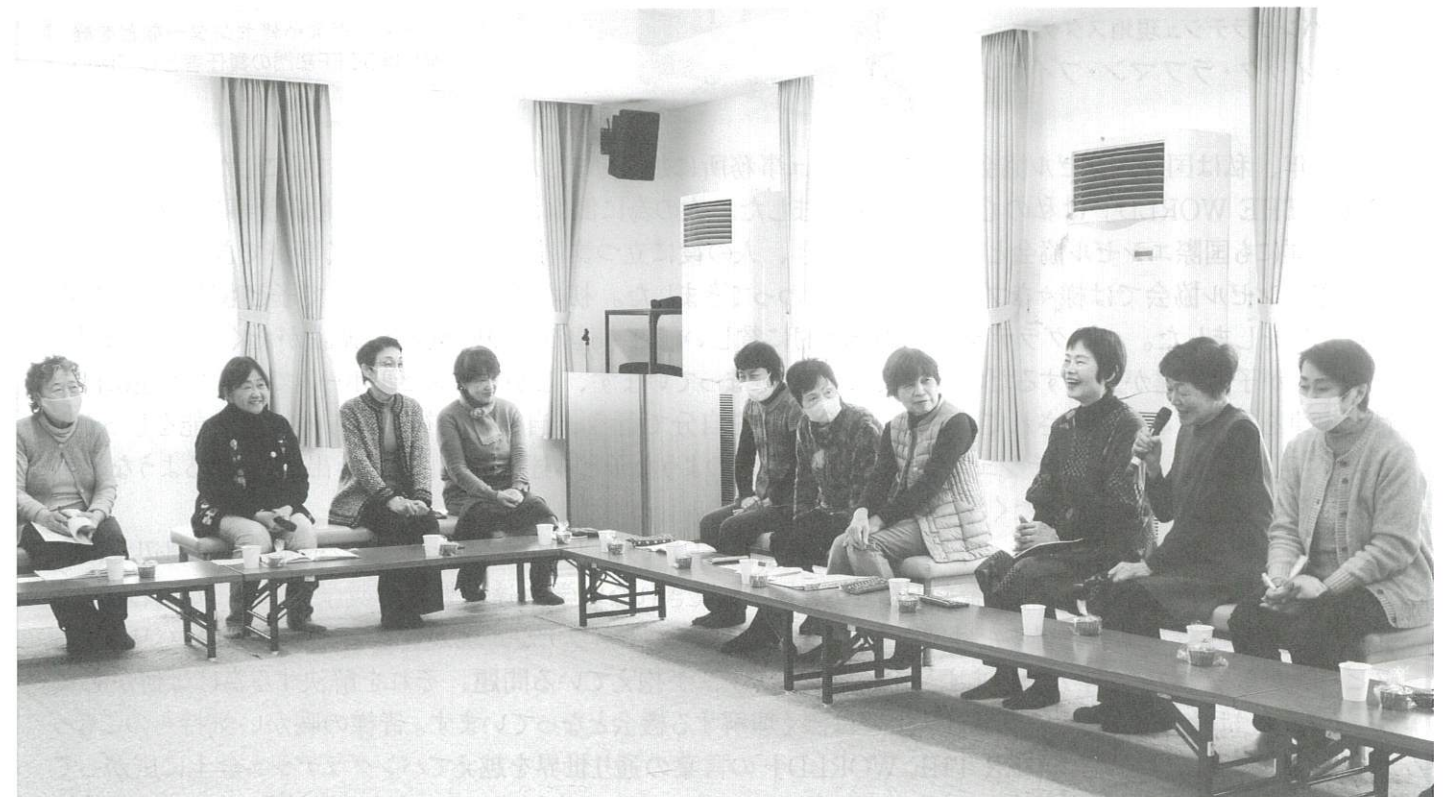
〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

ホームページ

ANGEL NEW

通巻206号
2024.01

謹賀新年



笑い声のあふれるボランティア委員会

新年おめでとうございます。皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年、私達の活動もコロナの規制が緩和され以前のように活発に活動することが出来ました。ボランティアセンターでは多くのボランティアの方々が準備に來られ、にぎやかな笑いが絶えませんでした。「また明日ね」「今度は火曜日に片付けましょう」と元気に帰って行かれる方達、40年以上経っても変わらない光景です。

この度、認定NPO法人としての認定を受けることが出来ました。これによって寄付された方に寄付金控除が受けられることとなります。私共の支援がよりしやすくなると思うと共に、活動が適正に行われることを認めていただいたことがとても嬉しいです。長年、私達の活動を支援し、ご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。

1982年、私の母が障害を持った娘と共に多くの皆さんに助けられ育ったことへの感謝を社会に恩返ししたいと思ひ、その思いに賛同した皆様と共に始まったボランティア団体。いつの間にか41年が過ぎました。「LOVE OVER THE WORLD 世界に愛を」をスローガンに掲げ途上国に支援をしてまいりました。とりわけバングラデシュには児童養護施設をはじめ、奨学金制度、女性自立センター、識字教室、学校運営、クリニック等々の支援活動をしてまいりました。これまで現地の多くの子ども達や学生さんからたくさんの喜びの報告をもらっています。そして、その子ども達の笑顔がボランティアさんの笑顔につながっています。これからも皆様と共に笑顔の絶えない支援活動を進めていきたいと思ひます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

代表理事 東村 真理子

国際エンゼル協会スタッフ紹介

皆様の支援活動を陰ながら支えてくれているスタッフ達。日本の事務所だけでなくバングラデシュでも10名以上のスタッフが、経済的に困っている子ども達や女性達の為に働いています。その心は皆様と同じ「人の役に立ちたい」、そんなスタッフ達の思いを紹介します。

バングラデシュ現地スタッフ アティック・ラフマン・ブイヤン



1991年バングラデシュ事務所に入所。エンゼルホーム、農業研修センターなどを経て、現在はDCEF部門の責任者として働いている。

1991年、私は国際エンゼル協会バングラデシュ事務所に加わりました。その時初めに目にした言葉「LOVE OVER THE WORLD」は私の心に深く浸透しました。人の為に働く、これほど素晴らしい仕事はありません。私は幸運にも国際エンゼル協会と出会う事ができ、人の役に立つ素晴らしい仕事に就く事ができました。

国際エンゼル協会では様々なプロジェクトに関わってきました。初めはエンゼルホームで子ども達のお世話をする先生をしました。バングラデシュでは経済的に貧しい子ども達の為に児童養護施設がたくさんあります。その多くが子ども達が生活するだけの施設になってしまっています、しかしエンゼルホームでは子ども達に自主性と規律を重んじる教育がされています。自分の事を自分で行う、自律の精神は彼らの持つ才能をしっかり育ててくれます。バングラデシュにはエンゼルホームのような子ども達の可能性を引き出してくれるような教育を行う児童養護施設がもっとたくさん必要だと思います。

その後も様々な部門に関わり、今は奨学金支給(DCEF)の担当をしています。エンゼルホーム周辺だけでなく、バングラデシュ全土に奨学金を支給しており、数えきれない学生達が皆様の奨学金によって救われてきました。奨学生達はお金を得るだけでなく、支給時に聞くバングラデシュ現地責任者のアジズル・バリによるスピーチから多くの事を学んでいます。今バングラデシュが抱えている問題、それを解決する為には何が必要か、その答えは教育にあるという事を学生達は深く理解する機会となっています。皆様の暖かい気持ちのこもった奨学金はまさに「LOVE OVER THE WORLD」の言葉の通り世界を越えてバングラデシュ全土に広がっています。これからもどうぞ、バングラデシュの学生達の幸せの為に支援くださいますようお願い申し上げます。

国際エンゼル協会本部スタッフ 東村 とも子



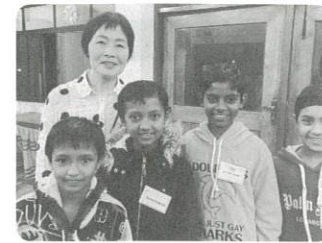
2020年国際エンゼル協会事務局に入局。経理、庶務、会員管理などの事務作業に従事している。

私は子どもの頃からエンゼルのバザーなどのお手伝いに参加していました。そして2020年にエンゼルの事務所でスタッフとして働く事になりました。ボランティアの皆さんと接する時間が増えたことで、今まで感じていた以上に日々の皆さんの努力や情熱を身近に見ることができるようになりました。雨の日も風の日も真夏でも真冬でも全力で、そして笑いを絶やさず積極的に活動する姿は私だけではなくボランティアセンターに来られる方々皆が感動させられています。

「誰かの為」という気持ちだけではなかなかそこまでできる事ではないと思います。いつも笑顔でたくさん会話をし、時には怒ったり泣いたりしながら絆を深めて、バングラデシュの子ども達やスタッフだけでなく、一緒に活動をしているメンバーのことも時には友達、時には家族のように思っているからこそできるのだと感じます。関わる人達のことを大切に思う事、エンゼルという場所を家や学校、ふるさとのように思っている事が原動力になっていると感じています。

バングラデシュへの支援だけでなく、エンゼルがボランティアの皆さんの大切な場所であり続けられるよう、又、これから誰かの大切な場所になるように私自身も皆さんと笑いながら歩んでいきたいです。

元・国際エンゼル協会本部スタッフ 日野田 千代子



2001年からの13年間、国際エンゼル協会事務局でノクシカタ製品、経理関係の事務作業に従事する。退局後もボランティアとしてノクシカタ販売他、バザーやチャリティ活動に参加されている。

私は13年間、国際エンゼル協会のスタッフとして勤めさせていただいておりました。それは主人はじめ子ども達の協力があったからこそ13年間でした。スタッフとなると「バングラデシュに行きたい!現地の子ども達の事を知りたい!プロジェクトについて理解を深めたい!」と強く思うようになり、スタッフになった翌年にバングラデシュツアーに参加する事ができました。その当時のバングラデシュは今とは比べ物にならないくらい道も悪くゴミゴミしていました。しかしエンゼルホームの子ども達の目は輝き、生きる力がみなぎっていました。「この子ども達の力になりたい!」と心が弾み、感動で胸がいっぱいになりました。

ボランティアセンターでは主にノクシカタ刺しゅう製品の管理や法人の会計を担当しておりました。その間にも公私ともに様々な事がありましたが、毎日が充実しており人生において本当に貴重な時間となりました。退職後もボランティアとして国際エンゼル協会の支援活動に参加し、微力ながらバングラデシュの人々の為にお役に立てる事に喜びを感じております。またいつまでも行く場所があるという事に心より感謝しております。

昨年の12月、3度目のバングラデシュ訪問をさせていただきました。9月に現地責任者のバリさんが来日された際に現地の発展の様子を聞き、ぜひこの目で見てみたいと思ったからです。高速道路、モノレール、大型ショッピングモールなど、ダッカ市内の目覚ましい発展を。そして国際エンゼル協会がバングラデシュに支援を始めて39年、エンゼルホームで教育を受けた子ども達が裁判官、医者、看護師、教師、エンジニアなど、様々な分野で活躍している事に、改めて教育の大切さを痛感いたしました。成長した子ども達に会えるのも楽しみです。これからも微力ながらボランティアの一員として支援活動に頑張りたいと思います。

バングラデシュ現地スタッフ ハサン・ジャヒル



バングラデシュの大学(社会学部)を卒業後、2015年に現地事務所に入所。エンゼルホームの子ども達のお世話をするケアワーカーを経て、昨年よりホームの運営管理を担当している。

私はハサン・ジャヒルと申します。2015年よりエンゼルホームで働いております。国際エンゼル協会のバングラデシュでの活動の中でエンゼルホームは、家庭の事情を抱え経済的に貧しくて苦しんでいる子ども達にとってとても重要で救いとなる活動です。バングラデシュにおいて、児童養護施設は子どもを取り巻く社会問題の中で最も重要な役割を担っています。農村の子ども達の多くが、経済的な理由で彼らにとって必要な機会を奪われています。社会の発展に取り残され、経済的に苦しい中で生活し満足に勉強もできない、エンゼルホームのプロジェクトはそのような子ども達のニーズにダイレクトに働きかけるものです。子ども達は国の宝です。国際エンゼル協会の活動は彼らを素晴らしい宝物に成長させてくれています。

私は当初、ホームの子ども達と共に生活し面倒を見る先生として働いていました。子ども達と一緒に生活をする中で、彼らにとって夢を持って将来に向かっていくことがどれだけ意味のある事かを感じることができました。また、彼らはホームで規律を守り、自分達の事は自分達で行う生活をしています。「決められたルールを守る」「時間を守る」単純なことです、このことが彼らの将来において一番重要で価値のある教育となっています。彼らはここでの生活を通じて素晴らしい大人に成長し、彼らの家族を助け、そして社会の発展を担う優秀な人材となることでしょう。

現在私はエンゼルホームの運営管理を任されています。バングラデシュの発展に取り残され苦しんでいる多くの子ども達救う、国際エンゼル協会の活動に携わられていることを誇りに思います。これからも皆様と共に歩んでいきたいです。どうぞよろしくお願いします。